

サステナブルな未来がもたらす
5つの財務的メリット



サステナビリティを 第一に考えた未来づくり

サステナビリティを第一に考えたビジネスアプローチは、もはや感情的なプロジェクトでも、単にあればよいというものでもなく、組織の長期的な収益性を高めるために必要不可欠なものとなっています。最優先事項として捉えるかどうかは別として、サステナビリティなビジネスモデルを開発し維持するためのビジネスケースを無視することは、もはや選択肢ではなくなりました。

サステナビリティは、収益とビジネス存続の両方に関わるものです。

パンデミックや相次ぐ自然災害が示すように、直線的なオペレーションは中断の影響を受けやすく、組織の時間やコストを圧迫し、利用できる人材の範囲も狭まります。

原材料や部品の供給が途絶えたり、遅れたりする可能性があります。

従業員が工場や配送センターにたどり着けなくなる。物流網が寸断される可能性もあります。

サステナブルなビジネスの鍵は、つながったデータです。

エンドツーエンドの可視化により、企業は監査可能で効率的なプロセスを構築し、すべてのコンポーネントが再利用またはリサイクル可能であるようにすることができます。しかし、これは理想論ばかりではありません。投資家は、サステナビリティがビジネスだけでなく、グローバルなエコシステムをも支えていることを認識しています。

同様に顧客は、責任をもって作られた製品に対して、より多くの金額を支払う意思を示しています。

このようなことを考えると、なぜ企業はサステナビリティを第一に考えた未来を認識し、それを優先させないのでしょうか？

サステナビリティのための設計と製造を行うことで、企業はビジネスにおけるこれらのリスクを軽減し、堅牢でレジリエンスのある、収益性の高い未来を確保することができます。

1. 顧客を獲得し維持する

顧客は、企業がサステナブルなアプローチを行っていることを証明することをますます求めるようになっていきます。また、Z世代が急速に購買力を増している現在、顧客はサプライチェーン全体に対する影響力を強めています。



したがって、サステナビリティへの定量的なアプローチに取り組むことは、企業が財政的に安全な未来を確保するための有効な手段となります。



CEOの52%もが、消費者の支出と行動の変化を懸念しており¹、消費文化から真の循環エコノミーへの移行が、ビジネスにとってより費用対効果の高い未来への鍵であることを示しています。

IFSのソリューションは、エンドツーエンドですべてを追跡するために必要な、包括的な監査可能データを提供します。適切なデジタルソリューションにより、企業は、サプライチェーン上の輸送手段から部品の再利用、再製造、リサイクルに至るまで、無駄を削減し、効率を高める機会を迅速に特定することができます。

より循環的な製造サイクルに向けた一歩一歩が、顧客ロイヤリティの獲得と維持に貢献します。

¹ <https://www.pwc.com/gx/en/ceo-survey/2014/assets/pwc-17th-annual-global-ceo-survey-jan-2014.pdf>

2. 投資を惹きつける

新世代の投資家は、サステナビリティの価値を理解しています。顧客と同じように、投資家もサステナビリティの証明を求めています。



世界の運用資産の 25% 以上が、環境・社会・ガバナンス (ESG) 要因に基づき投資されています²。

したがって、新しい時代の投資家は、単にリターンを追求するのではなく、財務戦略に新しい価値観を適用していることは明らかです。そのため、企業が市場価値を維持し、有利な投資機会を継続的に獲得するためには、ESG ポリシーに注力することがより一層必要となっています。

今、これまで以上に、アナリティクスを応用し、材料の供給源から最終顧客の需要に至るまで、製品の持続可能性を実証する能力が、メーカーが新たな投資を獲得するために不可欠となっています。今日の企業は、ESG の 3 つの柱を遵守する方針と実証的な行動によって、「より卓越した商品」に対して果たしている役割を示すことができる必要があります。これらのステップを踏まないと、ESG の優遇的な借入や投資を利用することができなくなります。

3. 人材を確保する

優秀な人材を確保し、維持するのは大変なことで、コストもかかります。ビジネス価値とサステナビリティへのコミットメントを実証することで、貴重な人材を採用し維持するための戦いに決定的な優位性をもたらすことができます。

また、サステナビリティとサービタゼーションも重要な役割を担っています。今日のデジタルに精通した人々は、所有についての新しいアイデアを知り尽くしています。

これらの人々は、よりサステナブルな方法で生活することを意識しており、すでに積極的に取り組んでいます。そのため、Z 世代は、雇用に関して、給与よりもパーパスを優先する最初の世代となりました³。

IFS の人材管理 (HCM) のようなソリューションは、サステナブルな社会をリードする明日のチームのために、今日の人材を育成するために設計されています。戦略的なソーシングとプランニング、人材開発、時間と費用の配分、パフォーマンス管理から、グローバル企業の中核となる人事までカバーします。

企業は、あらゆるとサステナブルな企業に投資することで、費用対効果の高い採用に支えられた、より財政効率の高い未来を創造することができます。

² <https://www.mckinsey.com/industries/private-equity-and-principal-investors/our-insights/from-why-to-why-not-sustainable-investing-as-the-new-normal>

³ <https://info.themanufacturer.com/amr-2020>

4. イノベーションを促進する

サステナビリティは、イノベーションの原動力です。サステナブルなモデルへの移行は、あらゆるところでイノベーションに拍車をかけます。



成長を促し、顧客を獲得し、コストを削減し、エンドツーエンドで効率を高めることで、サステナブルな戦略は、変革的なイノベーションを支え、サポートするものなのです。

循環エコノミーの原則は、サステナビリティがサプライチェーン全体のイノベーションを促進することを示すものです。サステナブルなサービスやメンテナンス体制は、特に、製品が長持ちするように作られている場合、その寿命を延ばし、価値を高めます。

また、製造工程では、水や電力を節約し、製造コストを削減することができます。さらに、よりサステナブルな製造へのアプローチは、競争上の優位性と差別化の新たな源泉を明らかにし、成長と収益に直接貢献します。

イノベーションは、明確で実用的な基盤の上で起こらなければなりません。組織は、サステナビリティへの新たな道筋を見出し、無駄や非効率を排除し、財務的な成長と将来への強靭さを促進するための洞察力と可視性を提供するテクノロジーを必要としています。

5. 実績を利用し 活用する

サステナビリティのほぼすべての側面とそのメリットを引き出すには、透明性が重要です。ステークホルダーにサステナビリティの有効性を証明するだけでなく、情報に基づいた意思決定に必要なデータへのアクセスも必要です。

適切なテクノロジーを使用すれば、組織は、サプライチェーンや製造プロセスのどの時点からでも、すでに実現しているサステナビリティを証明することができます。つまり、過去の慣行を活用して、よりサステナブルで、倫理的、財務的に革新性をもつ選択をする際に、企業がすでに達成していることを示すことができるのです。

IFS Digital Twin of the Organization(DTO) ソリューションでは、プロセスのレビューとオーケストレーションを行い、戦略に対する実行を確実に実現することができます。どの機能がサステナビリティと顧客価値をもたらすかを明確に把握することで、企業は効果的でないプロセスや時間とリソースを浪費するプロセスを特定することができます。

多くの場合、サステナビリティの認証は、ビジネスパフォーマンスの向上につながります。

したがって、
組織がより持続可能な未来に向けて
すでに一步を踏み出していることを
示すテクノロジーを活用することで、
かなりの競争優位性を得ることが
できます。

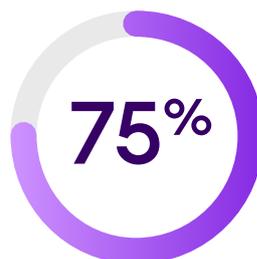


ビジネスケースには 議論の余地がない

気候変動に関する重要な倫理的な懸念を横に置いても、サステナブルなモデルに対するビジネスケースは議論の余地がありません。



これを実現するためのテクノロジーは既に確立されていますが、組織がサステナビリティを定量化できることによる財務的なメリットを本当に享受できるようになるのは、適切なデジタルソリューションの活用なのです。



メーカーの75%以上⁴が市場の変化や課題にビジネスモデルを適応させており、証明可能なサステナビリティに関しては、誰にとってもメリットがあることを意味しています。ますます混乱し、動きの速い世界において、サステナブルな製造は、成長と競争上の優位性をもたらす証明された道筋です。

組織にとって、サステナビリティについて話すだけでは、もはや通用しません。実行可能な成果を達成することなく、文化的な変化に対応するために、単にボックスにチェックを入れるだけでは、すぐに税制上の罰則を受け、投資、顧客、人材の獲得と維持において競争上不利になります。サステナブルなビジネスモデルを構築できなければ、費用対効果に優れ、財務的にレジリエントな未来を阻むこととなります。

あなたの組織が、より収益性の高い未来のために、サステナビリティを活用し、発展させ、証明する方法についてさらに詳しく知るには、IFSのサステナビリティのためのデジタルビジネス評価を利用してみてはいかがでしょうか。

⁴ <https://www.pwc.com/gx/en/ceo-survey/2014/assets/pwc-17th-annual-global-ceo-survey-jan-2014>.

IFS について

IFS は、エンタープライズ・クラウド・ソフトウェアのプロバイダーとして、「ものづくり」、「サプライチェーン」、「設備の維持管理」、「サービス中心のビジネス」を支援するためのソリューションを開発し、世界各地の企業に提供しています。IFS の業界固有の要件に対応した製品は、1つのプラットフォーム上で、本質的に単一のデータモデルに結び付けられており、組み込み型のデジタルイノベーションを使用しています。これにより、お客様は、顧客にとって本当に重要なとき、すなわち「サービスの瞬間」に最善を尽くすことができます。

各産業に深く精通した IFS のコンサルタントと広がり続けるエコシステムによって、IFS は業界のリーダーとして認められ、お客様に高く評価されています。現在、IFS は 5,500 人の従業員を擁し、IFS のソリューションは全世界で 10,000 社を超えるお客様に導入されています。

IFS は世界各地の直営拠点やパートナーとともに、これらのお客様を支援しています。さらに詳しくは ifs.com をご覧ください。

#MomentOfService